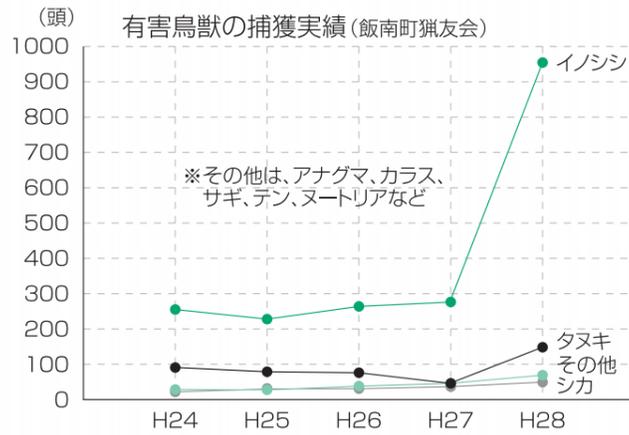


「駆除」か「共生」か。

鳥獣被害対策最前線!

「駆除」か「共生」か。



「耕作放棄地が増えて、里山が荒れて、猟をする人も少なくなりました。野生動物が人里近くに多くなって、最近ではイノシシだけでなく、クマやシカも増えてきている。サルや目撃も増えてきているようだ」と話すのは、飯南町猟友会の藤原國利さん。

町合併以来、猟友会の会長として野生動物に関わってきました。現在、猟友会は、散弾銃やライフルなど、猟銃を使用できる免許所持者21人、わな猟の免許所持者36人の、合計57人で活動しています。

猟をするときに一番大切なのが安全の確保。「矢先の確認! 脱包」が合言葉です。矢先の確認は、銃口を決して人の方へ向けないこと。脱包は、移動時に弾丸を銃から取り出すことで、数十メートル先に移動するとさきも必ず行います。目で確実に獲物が見えるときにしか撃た



飯南町猟友会 藤原國利さん

野生動物を獲る

策は急速に進んでいます。町が被害防止対策に投じた予算は、平成27年度に555万円でしたが、平成28年度は国の補助金が交付されたこともあり、6310万円(決算見込み)を投じて、取り組みを強化しました。

「無線によるメンバー間の連携も大切とのこと。猟は、一回に3時間程度で、午前1回、午後1回の計6時間程度。5人一組で行動し、3人が鉄砲で狙い、2人が獲物を追い込みます。「会員の約8割が60歳以上。人数もだが、高齢化も大きな課題。急な斜面の上り下りや、冬の猟は雪輪を履いているとはいえず、深い雪の上を歩くので、なかなかしわいよ」

「猟はやはり経験が必要。安全面でも、獲物をしとめるにしても、多くの若者に免許をとってもらい、経験を積んでいってほしい」との現実も。

ひろがる鳥獣被害

ここ数年、目撃情報が多くなっているツキノワグマ。特に昨年度々の告知放送での注意の呼びかけに、「またか」と思われた人も多いのではないだろうか。

平成28年度、町内で捕獲された野生動物は、イノシシ926頭、シカ56頭、タヌキ156頭など。その捕獲数は、年々増加しています(左上のグラフ)。

イノシシの捕獲数は、27年度と比較すると、なんと3倍以上。平成27年度のイノシシの猟ができる期間は、11月1日〜2月末日でしたが、平成28年度は年度当初から被害が多発したため、年間を通じて猟をするこ

ガタン。ガタ、ガタンツ。

昨年11月16日、午前3時半。町内のある民家の窓の外。怪しげな音で目を覚ました住人。縁側から外をうかがうと、複数の黒い影が見える。そう、彼らはやってきた。秋の味覚「柿」をほおぼる「熊」たちだ。

でも捕獲数は大きく増加しています。また、直近5年間で最も農作物への被害金額が大きかったのが、平成26年度の510万円。しかし、共済や役場で把握できていないものも多くあり、実際の被害額はさらに大きいと考えられます。

広がる農作物被害に対して、町内各地域で被害防止対策が行われています。平成23年度〜28年度の間設置された侵入防止の柵や捕獲道具は、ワイヤーメッシュ延長98・1km、電気柵延長68・3km、箱わな55基など。全国的に広がる野生動物による被害に対し、本町でも対

侵入を食い止める

「侵入を食い止める」

木に登り、渋柿を食べる3頭のクマ(矢印付近)(撮影地:町内)

【クマの豆知識】

日本に生息するクマは、ツキノワグマとヒグマの2種類。ヒグマは北海道にのみ生息しているため、本州にいるクマは全てツキノワグマ。(世界で見てもクマの種類は8種類だけ)

ツキノワグマは、1994年に、個体数の減少から、西中国地方(島根県・広島県・山口県)で狩猟禁止措置がとられる。現在では、禁止措置の効果もあり個体数は回復。しかし、九州地方では絶滅した可能性が高く、四国地方でもその数は極端に少なくなっていると言われる。

後継者の確保のために 狩猟免許の取得を応援!

対象 町内に住所があり、新たに狩猟免許を取得する人

補助金額

- ① 免許取得 上限13万円
- ② 銃器購入 上限10万円

※詳細はお問い合わせください。

■お問合せ 産業振興課 電話 76・2214